

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～第2回

### 1. 実施日

令和3年5月8日（土）1・2限

### 2. 場所

講堂（2クラス合同実施）

### 3. 対象

グローバル科1年生（6・7組）

### 4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 6組 山中脩平、中村啓介  
7組 金本瑞穂、矢野和久

### 5. 内容

#### プチ探究

#### (1) 説明

##### ① 趣旨

次回以降の取り組みを前提に、実際にプチ探究を経験してみる

##### ② おおまかな流れ

ア 研究テーマを決める 「自転車事故」

イ RQを立てる 「鳥羽高生の自転車事故を減らすために必要な対策は何か」

ウ 仮説を立てる

エ 研究方法を選ぶ （この場で Forms によるアンケート）

オ 調査・実験をする

カ 結果をまとめて考察し、まとめる

キ 研究内容をまとめ、発表する

以上のうち、ア、イ、エは指導者で用意し、ウ、オ、カ、キを経験する

##### ③ 配付資料

ア 自転車事故の事例3件

イ 京都市内の自転車事故発生件数

ウ 京都市南区内の自転車事故発生場所（平成30年のドットマップ）

エ 鳥羽高生の自転車事故の経年比較

オ 交通ルールについてのアンケート調査

#### (2) アイスブレイク

##### ① 内容：6・7組を交えて誕生日順に一列の輪になる

（同じ誕生日なら背が高い順）

##### ② ルール：言葉は発せずにジェスチャーで行う

4月2日から翌4月1日までの誕生日順で同じならば背が高い順

##### ③ 手順：a 指導者が口頭で一切しゃべらないことを指示する

b 4人毎にグループになり、グッズ類を1セット前に取りに来る

- ④ 学 び： a ルールを守る  
b 協働する  
c ノンバーバルコミュニケーションをとおして、  
コミュニケーション＝協働の重要性を体感する

(2) ワーク：プチ探究「鳥羽高生の自転車事故を減らすために必要な対策は何か」

- ①目 的 得られたデータを元に問題解決への方法を探る  
また、それらを発表・報告し合うことで他者の見方や表現方法に気付く
- ②手 法 配布された資料やFormsによるアンケート結果を基に、各自が気づきや  
解決への糸口を述べ合い、キーワードマップやポスターの形にまとめる
- ③仮 説 まとめられた結果を基に、協働して解決への仮説を立てる
- ④発 表 3グループ毎に互いの探究内容を発表する

## 6. 学び

- (1) 同じ課題意識を背景を持った探究テーマでも、アプローチの方法が違えば全く別の探究になることを知る。
- (2) 探究の目的や調査の方法を疑似体験する。

## 7. 次回への課題

今回は課題及びデータを与えられて問題解決の方策を探ったが、身のまわりの様々な課題からどんな問題を自分事として考え、どのように解決への方策を模索していくかを学ぶ。

## 8. 授業の振り返り

ガイダンス的な内容を主とした1回目につき、この活動を通して探究の過程を概観しようという狙いから京都市南区の自転車事故に注目し、自転車の事故を防止するためには何ができるかについて考えた。自分たちの交通に関わる意識を、アンケートの回答と集計を行うアプリケーションを用いて調査し、このデータと一般に公開されている各データとを照らし合わせて、課題解決の方法を考察した。2次データ（公開されているデータ）だけでなく、1次データ（自分たちで集めたデータ）と合わせて考察することで、課題を自分事としてとらえ、調べ学習の枠を超えようすることができた。

## 9. 参考文献

- (1) 京都府警察 南警察署（令和元年～2年）
- (2) 京都府立鳥羽高等学校 生徒指導部（平成30年～令和2年）
- (3) 谷口俊・谷口篤（2017）小学生の自転車行動に関する調査、椋山女学園大学研究論集48号（社会科学編）P71～80